



選ばれし3成分で強力除草!!

ピラクロニル ^{NEW}

ノビエを始め、広葉・カヤツリグサ科・SU抵抗性雑草にも幅広く、速効的に効く

イマゾスルフロン

多年生雑草を始め、幅広い雑草に効果が高い

プロモブチド

ホタルイに高い効果を示す

—— 雑草に速く幅広く効く!! SU抵抗性雑草に効く!! ——



ノビエ 2.5葉期



コナギ 2葉期



オモダカ 発生始期



ホタルイ 2葉期



クログワイ 発生始期



アゼナ 1葉期
※SU抵抗性



アオミドロ 発生前



コウヤガラ 発生始期

雑草写真	地理高野の雑草のイラスト
雑草名	ラジコンヘリ散布機

ラジコンヘリ散布に
適用拡大!(1キロ粒剤)

水稲用初・中期一発処理除草剤

バッチェル

1キロ粒剤
フロアブル
ジャンボ

®は協友アグリ(株)の登録商標です。

特長

- 新規成分 ビラクロニルを含有し、ノピエを始めとして一年生雑草、多年生雑草まで幅広く高い効果を示す。
- 田植同時処理も可能。*1キロ粒剤、フロアブル
- SU抵抗性雑草にも高い効果を示す。
- 効果の発現が非常に速い。
- 温度による効果の変動が少ない。

適用雑草の範囲及び使用方法

バッチリ 1キロ粒剤 ■有効成分(一般名)ビラクロニル:2.0% イマズスルフロン:0.9% プロモブチド:9.0% ■人畜毒性:普通物 登録番号 第22148号

作物名	適用雑草名	使用時期	10a当り 使用量	適用 土壌	本剤の 使用回数	使用方法	ビラクロニルを含む 農薬の総使用回数	イマズスルフロンを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草及び マツバ、ホタルイ ヘラオモダカ(北海道、東北) ミスガヤツリ(北海道を除く) ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ(北海道を除く) コウキヤガラ(関東・東山・東海、九州) アオミドロ・藻類による表層はく離(九州を除く)	移植時	1kg	砂壌土 ～ 埴土	1回	田植同時 散布直後 で施用	2回以内	2回以内	2回以内	全域の 普通期及び 早期栽培地帯
		移植直後～ ノピエ2.5週間 前 但し、 移植後30日まで				湛水散布 又は 無人 ヘリコプター による散布				

バッチリ フロアブル ■有効成分(一般名)ビラクロニル:3.7% イマズスルフロン:1.7% プロモブチド:16.3% ■人畜毒性:普通物 登録番号 第22149号

作物名	適用雑草名	使用時期	10a当り 使用量	適用 土壌	本剤の 使用回数	使用方法	ビラクロニルを含む 農薬の総使用回数	イマズスルフロンを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草及びマツバ、ホタルイ ヘラオモダカ(北海道、東北、九州) ミスガヤツリ(北海道を除く) ウリカワ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ(北海道を除く) コウキヤガラ(関東・東山・東海、九州) シズイ(東北) アオミドロ・藻類による表層はく離 (北陸・九州を除く)	移植時	500ml	砂壌土 ～ 埴土	1回	田植同時 散布直後 で施用	2回以内	2回以内	2回以内	全域の 普通期及び 早期栽培地帯
		移植直後～ ノピエ2.5週間 前 但し、 移植後30日まで				原液 湛水散布				

バッチリ ジャンボ ■有効成分(一般名)ビラクロニル:5.0% イマズスルフロン:2.25% プロモブチド:22.5% ■人畜毒性:普通物 登録番号 第22287号

作物名	適用雑草名	使用時期	10a当り 使用量	適用 土壌	使用回数	使用方法	ビラクロニルを含む 農薬の総使用回数	イマズスルフロンを含む 農薬の総使用回数	プロモブチドを含む 農薬の総使用回数	適用地帯
移植 水稲	水田一年生雑草及び マツバ、ホタルイ ヘラオモダカ(北海道、東北、九州) ミスガヤツリ(北海道を除く) ウリカワ、ヒルムシロ、セリ(北陸を除く) アオミドロ・藻類による表層はく離 (九州)	移植直後～ ノピエ2.5週間前 で 但し、移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (400g)	砂壌土 ～ 埴土 ～ 埴土	水田に 小包装(パック) のまま投入する	2回以内	2回以内	2回以内	2回以内	全域(九州を除く)の 普通期及び早期栽培地帯 九州の普通期及び 早期栽培地帯
		移植直後～ ノピエ2週間前 で 但し、移植後30日まで								

使用上の注意事項

3製剤に共通する注意事項

- 移植直後の初期除草剤による土壌処理との体系で使用する場合は雑草の発生状況をよく観察し、対応を失しないよう適切な散布をするよう注意してください。
- 連続し、浮き苗が生じないように、代かき、均等作業および植込付けは丁寧に行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特に注意してください。
- 軟弱苗を移植した水田、極端な浅水をした水田、極端な泥水となった水田及び砂質土で湛水の大きな水田(水深2cm/日以上)では、草害を生ずる恐れがあるので使用しないでください。
- 田植直前に生育したミスガヤツリは、完全に枯死してから使用してください。
- 寒し(霜雨)が予想される場合は除草効果が低下する恐れがあるので散布を控えてください。
- 本剤は、その殺草特性から、入水、れんこん、せり、くわいぼたを生育を阻害する恐れがあるので、これらの作物の生育期に栽培田で使用する場合は、十分注意してください。
- 移植水稲を栽培した後に、ばかき栽培する水田では使用しないでください。
- 本剤散布後の田圃水を作物等に湛水しないようにしてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 水産動植物(養殖)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に撒き、流入しないよう注意して使用してください。
- 散布器具及び服装の洗浄水は、河川に流さないでください。また空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

1キロ粒剤の注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なもので、ノピエの2.5週間までに処理を失しないように散布してください。なお多年生雑草は生育段階によって効果にふれかえるので、必ず適期に散布するよう注意してください。ホタルイ、ミスガヤツリは2週間前まで、ヘラオモダカは2週間前まで(但し東北は発生始期まで)、ウリカワは2週間前まで(但し北海道、東北は発生始期まで)、ヒルムシロは発生始期まで、セリは再生前～再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前から本剤の散布適期です。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く高い発生力のもので十分効果を示さないもので、有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態(水深0～5cm)で、均一に散布してください。本剤散布後、少なくとも3～4日は通常の湛水状態を保持し、散布後7日間は湛水、かけ流しはしないでください。
- 本剤を無人ヘリコプターで散布する場合は、次の事項に注意してください。
(1)散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。(2)専用の防滴散布装置によって湛水状態にしてください。(3)事前に農地の管理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング制度を調整してください。(4)散布開始の発現によって他の雑草に影響を与えないよう散布区域の指定に注意し、当該

本資料の記載内容は2010年1月現在の登録内容に基づいています。

★使用前にはラベルをよく読んでください。★ラベルの記載以外には使用しないでください。★空袋・空容器は農機などに放置せず、適切に処理してください。

水田田舎への殺草防止のため散布直前のインベットの殺草剤を調整し、農機の前から5m離れた位置から農機内に散布してください。(5)水溝、飲料水等に本剤が流入しないよう、十分注意してください。

●無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。

●空袋等は農機などに放置せず、適切に処理してください。

フロアブルの注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なもので、ノピエの2.5週間までに処理を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれかえるので必ず適期に散布するよう注意してください。ホタルイ、ミスガヤツリは2週間前まで、ヘラオモダカは2週間前まで(但し東北は発生始期まで)、ウリカワは2週間前まで(但し北海道、東北は発生始期まで)、ヒルムシロは発生始期まで、セリは再生前～再生始期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは発生30cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前から本剤の散布適期です。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く高い発生力のもので十分効果を示さないもので、有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態(水深3～5cm)で本剤が水田全面にいきわたるよう散布してください。本剤散布後、少なくとも3～4日間は湛水状態を保持し、散布後7日間は湛水、かけ流しはしないでください。
- 空袋等は農機などに放置せず、適切に処理してください。

ジャンボ剤の注意事項

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なもので、ノピエの2.5週間前まで(但し九州の砂質土では2週間前まで)に処理を失しないように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれかえるので、必ず適期に散布するよう注意してください。ホタルイは2週間前まで、ヘラオモダカは2週間前まで(但し東北は発生始期まで、九州は発生前)、ミスガヤツリは2週間前まで(但し北陸は発生始期まで)、ウリカワは2週間前まで(但し北海道、東北は発生始期まで)、ヒルムシロは発生始期まで、セリは再生前～再生始期、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前から本剤の散布適期です。
- 散布に当たっては、水の出入りを止め均一に散布してください。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保持し、散布後7日間は湛水、かけ流しはしないでください。
- 本剤の小包装(パック)のまま、10アール当たり10回の割合で水田に均等に投入してください。
- 草や浮き苗が多量に生育している水田では、草量が多量に発生する可能性があるため効果不足が生じることがあるので使用を避けてください。
- パックに使用しているフィルムは水溶性のもので、ぬれた手で作業したり、降雨で破損することがないように注意してください。
- 空袋等は農機などに放置せず、適切に処理してください。